

## 初の実験授業「法科大学院」へ始動

04年の法科大学院設置を目指し、初めての実験授業(専修大学法科大学院設置準備委員会主催)が10月5日、神田キャンパスで学生ら約100人が参加して行われた。法律的な問題を効率的に理解してもらうため、従来の授業とは趣きを変え、実務家による導入授業から講義を展開。討論も活発に行われ、双方向授業を旨とする法科大学院にふさわしい実験授業となった。

授業に先立ち日高義博法科大学院設置準備委員(法学部長)が開会のあいさつを行い「皆さんから活発に意見を出していただき、実りある授業にしていきたい」と学生に呼びかけた。

この日の実験授業は、法科大学院の法学未修者1年次生が対象。最初の導入授業では、傷害事件の刑事裁判を事案にし、その概要を明らかにしながら進められ「被告人は有罪か無罪か」を討論。弁護士として活躍中の宮岡孝之(昭54法)、杉山博亮(昭61法)、藤代浩則(昭63法)、井上泰(平2法)、高橋温(平5法)のOB5氏が進行役や被告、弁護士、検察官などを務めた。その後、学生の一部は講義を受講すべく別室で予習し、他の学生は引き続き討論に参加。その上で「正当防衛」をテーマにした講義が日高教授によって行われた。

全員討論会では当日の反省を含め改善点、教育方法等について意見が出された。参加学生からは「どうしても抽象的に感じてしまう従来の講義と違い、導入授業が行われたことによって理解の幅が広がった」などの感想が寄せられ好評だった。

なお本学の学生、大学院生、教職員を対象に法科大学院学内説明会が次の通り開かれる。

【生田校舎】日時＝10月18日(金)12時15分～：会場＝351号教室

【神田校舎】日時＝10月21日(月)12時15分～：会場＝303号教室

※問い合わせ＝法科大学院設置事務室(03-3265-6891)

〔10月15日/ニュース専修1面〕

## 「政策科学専修」にファイナンス・コース新設 大学院経済学研究科

大学院経済学研究科(鶴田俊正研究科長)は神田キャンパス(夜間開講)の教育体制を強化するため、03年度から政策科学専修にファイナンス・コースを新設する。

金融市場・資本市場、国際金融市場、企業の資金調達並びに金融をめぐるマネジメント論、信託・年金論など広く金融をめぐる諸問題についての授業科目が網羅されており、新時代の金融の専門家を養成することを目的としている。コースの特色などは次の通り。

(1)標準修業年限は2年であり、学位修士の取得方法には次の選択肢がある。①修士論文方式＝最低修得単位は30単位とし、論文審査および最終面接試験に合格すること ②GPA(グレードポイントアベレージ)方式＝同36単位、GPAは2.6以上とし、最終試験に合格すること。

(2)前記①②を自由に選択でき、最終試験合格者に学位修士(金融経済)を授与する。

(3)カリキュラムはすべて半期単位で編成される。

(4)コア科目24単位、オプション科目28単位、合計52単位から構成される。

(5)指導教授が特に認めた場合に限り、経済学研究科及び他の研究科の開講している授業科目を12単位まで履修することができる。

(6)入学試験は経済学研究科「プロフェッショナル・コース」が採用している方法に準拠して行う。

第I期の試験日は12月1日(日)【問い合わせは大学院事務課まで。044(911)1271】

[9月15日/ニュース専修1・3面]

### キャンパス探訪〈3〉建学の心を訪ねて



#### 専修大学創立百年記念碑

1880(明治13)年本学を開校した4人。明治3年静岡藩士・目賀田種太郎は初の国費留学生として、翌4年に薩摩藩士・田尻稲次郎は国費、彦根藩士・相馬永胤は藩費(のち国費)で米国に留学した。廃藩置県後の明治7年には旧桑名藩士・駒井重格が旧藩主に随行して渡米、そこで互いに知友に。

4人は私費留学ではない。それぞれ官・財界での成功を約束されていたが、留学で得た知識・学問を、自分達を送り出した社会に有効に生かし、恩義に報いるために学校の設立に思いが至った。

生田校舎正門を入った正面に、稲田石の高さ4メートルの「専修大学創立百年記念碑」が建つ。碑文に「専修大学の建学の精神は社会に対する報恩奉仕であり 質実剛健 誠実力行は学風である」。揮毫した書家は文化功労者で本学教授も努めた故・手島右卿氏。

[9月15日/ニュース専修1面]